

SUPERSTAR



# Assembly Manual

組み立て説明書

Manual de montaje

## ENGLISH

1. Assembling the Bass Drum .....	4
2. Assembling and Adjusting the Drum Pedal .....	5
3. Setting Up the Drum Throne .....	5
4. Setting Up the Snare Stand and Snare .....	6
5. Setting Up the Tom Holder and Tom Toms .....	6
6. Assembling and Setting Up the Floor Tom .....	6
7. Assembling and Adjusting the Hi-Hat Stand .....	7
8. Assembling the Cymbal Stand .....	7

## 日本語

1. バスドラムの組み立て .....	8
2. ドラムペダルの組み立てと調整 .....	9
3. ドラムスローンのセッティング .....	9
4. スネアスタンドとスネアのセッティング .....	10
5. タムホルダー、タムタムのセッティング .....	10
6. フロアタムの組み立てとセッティング .....	10
7. ハイハットスタンドの組み立てと調整 .....	11
8. シンバルスタンドの組み立て .....	11



# ESPAÑOL

1. Montaje del bombo .....	12
2. Montaje y ajuste del pedal .....	13
3. Montaje de la banqueta .....	13
4. Ajuste del soporte de la caja y la caja .....	14
5. Ajuste del soporte del Tom y de los Toms .....	14
6. Montaje y ajuste del goliat .....	14
7. Montaje y ajuste del soporte del charles .....	15
8. Montaje del soporte del plato .....	15



この度はTAMAドラムセットをお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本誌はドラムセットの組み立て方を初心者の方にもわかりやすく説明した解説書です。ドラムに限らず、楽器自体を理解することは、その上達への第一歩ともなります。組み立て前に本説明書をよく読んで、より叩きやすくセットし練習してください。

## 1. バスドラムの組み立て

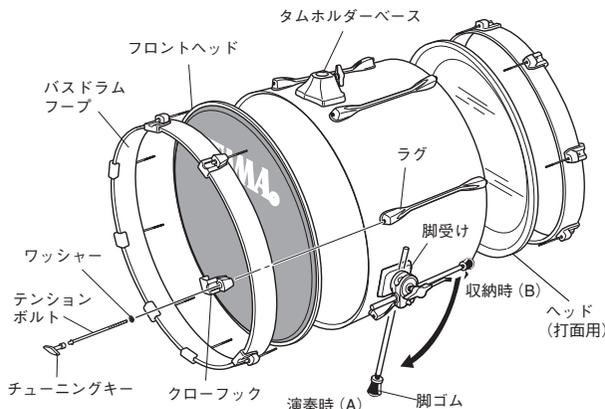


図 1-1A

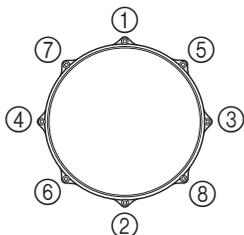


図 1-1B

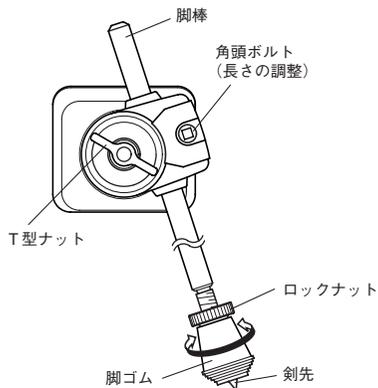


図 1-2A



図 1-2B

### 1-1. ヘッド、フープの取り付け

A カートンのコーナーにある部品箱に、テンションボルトとフックが同梱されています。図1-1Aのようにテンションボルトを通したクロウフックをフープに掛けて組み立ててください。

#### 注意

- \* ヘッドを張る際には、一箇所だけを強く締めないで下さい。最初はチューニングキーを使わず、指で締められる程度に各ボルトを締め、そのあとチューニングキーを使って図1-1Bのように対角線の順に少しずつ均等に締めるとうまくいきます。
- \* 必要に応じてフロント側のヘッドには穴をあけてください。中心から離れたところに小さい穴をあけると太い音が、逆に中心に大きな穴をあけるとサステインの短いアタックの強い音になります。
- \* チューニングキーは、Bカートン内のパーツボックスに同梱されています。

### 1-2. 脚受けのセッティング

#### 1-2A. 角度と長さの調整

脚棒を脚受けに取り付け、バスドラムをセットします。図1-2Aのように角頭ボルトを緩めると脚棒の長さが、またT型ナットを緩めると脚棒の角度が変えられます。固定された状態から約一回転半T型ナットを緩めると自由に回転しますが、内部のツメによってA,Bの位置が決まりますので、図1-2Bのように演奏時はA、収納時はBの位置にあわせて固定してください。脚棒の長さは左右均等になるように注意し、バスドラムの下側に手のひらが入る程度にするとスネの良い音が得られます。

#### 1-2B. スパイクの調整

図1-2Aのように、脚ゴムと剣先が選択できます。床の状態にあわせて調整して下さい。ロックナットを締めると脚ゴムの位置を固定できます。

#### 注意

- \* スパイク(剣先)は床面を傷つけます。床を傷つけてはいけな場所演奏するときは脚ゴムから剣先が出ないように注意してください。また、厚手のカーペット等を床に敷くと傷の防止になります。
- \* バスドラムの脚棒は、Aカートンのコーナーにある部品箱に同梱されています。

## 2. ドラムペダルの組み立てと調整

### 2-1. ドラムペダルの組み立て

図2のようにスプリングフックをローラーに掛けてください。

ピーターを写真のように取り付け、ピーター固定ボルトを締め固定します。ピーターの長さはバスドラムヘッドの中心か、やや上にあたるように調整して下さい。HP200のピーターはフェルトと樹脂を選択することで二種類のサウンドが得られます。



図 2

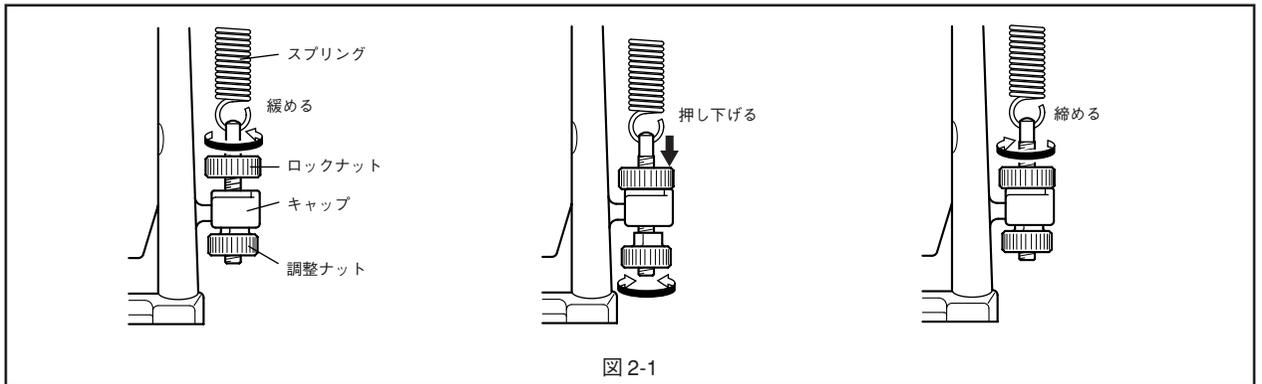


図 2-1

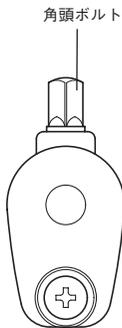


図 2-2

#### \* スプリングテンションの調整

スプリングテンションを調整することによって、ペダルの踏み心地を調整することができます。図2-1のようにロックナットを緩めた後でロックナットを押し下げるようにすると調整ナットが回る仕組みになっています。好みのテンションが決まったらロックナットを再び締めてください。

#### \* ピーター角度の調整

図2-2のようにピーター角度調整ボルトを緩めると、ピーター角度とフットボードの角度を連動して調整できます。好みの角度がきまったら調整ボルトをしっかりと締め固定します。

#### \* ペダルの取り付け

フープクランプでバスドラムフープを挟むようにして、ペダルをバスドラムに固定します。演奏中の緩みを防ぐためにフープクランプのT型ボルトはしっかりと締めてください。

## 3. ドラムスローンのセッティング



図 3-1

ドラムスローンの脚部とシート部を組み合わせてセットします(図3-1)。三脚部は座ったときに安定するよう十分に開いてセットします。高さは座ったときに膝が直角に曲がる程度が一般的ですが好みに合わせて調整して下さい。また演奏中にスローンが下がるのを防ぐために、高さ調整部のメモリーロックは確実に締めてください。

#### 注意

ドラムスローンはセットの種類によって別売りとなるものがあります。

## 4. スネアスタンドとスネアのセッティング

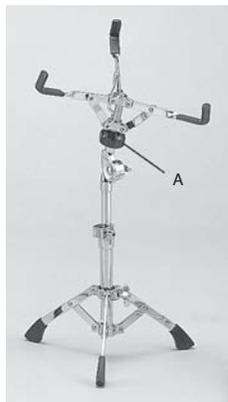


図 4-1

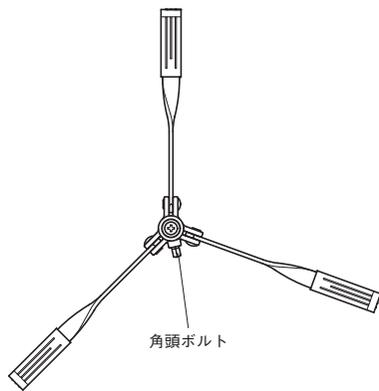


図 4-2

### 4-1. スネアスタンドの組み立て

図4-1のようにスネアスタンドを組み立てます。Aのナットはバスケット部の開き具合を調整するためのものです。ナットを右に回すにつれてバスケットが開きます。三本のアームでしっかりとスネアドラムを支えられるように調整して下さい。また、スネアの高さや角度は好みに応じて調整して下さい。スネアドラムの位置は、ドラムスローンに座ったときに体の正面になる位置が基本です。

### 4-2. SWIVELING BASKET

TAMA スネアスタンドは、アーム部が下側のフープのフランジ(テンションボルトが通っている部分)に接触しないように、3本のアーム部の間隔が一箇所広くなるように設定されています。この間隔が広い部分にストレイナーがくるようにセットして下さい。また、図4-2の角頭ボルトを緩めるとバスケット部が自由に回転しますので、演奏中のストレイナーの位置を自由に調整することができます。好みの位置が決まったら再度ボルトを締めて固定します。

## 5. タムホルダー、タムタムのセッティング

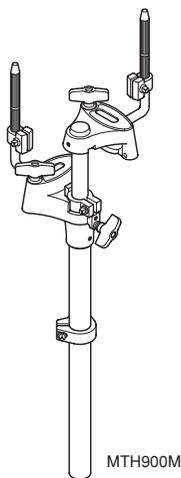


図 5-1

タムホルダーをバスドラムのタムホルダーベースに挿入し、固定します。2ページの写真のように個々のタムブラケットをLロッドに固定してください。TAMAのタムホルダーはボールロッド方式を採用していますので、タムタムの角度はT型ナットを緩めるだけで自由に調整できます。好みの角度が決まったら再びT型ナットを締めて固定します。

タムホルダーのパイプ部やLロッドに付属のメモリーロックを併用すると、より固定力が高まるだけでなく次回からのセッティングがすばやく行えます。

MTH900Mは図5-1のように左右のタムタムの高さを自由に設定でき、より複雑なセッティングにも対応します。

#### 注意

Star-Cast マウンティングシステムの取り扱いについては、別途添付の説明書をご覧ください。

## 6. フロアタムの組み立てとセッティング



図 6-1



図 6-2

### 6-1. フロアタムの組み立て

バスドラムと同様にヘッド、フープの順にシェルにのせてヘッドを張ります(図6-1)。打面と裏面用の付属ヘッドは厚みが異なりますので、組み付け済みのタムタムのヘッドに印刷されたマークを見て確認してください。フロアタム用のテンションボルトは、B カートンのコーナーにある部品箱に同梱されています。

### 6-2. フロアタムのセッティング

#### 6-2A. スタンダード・キットの場合(14" or 16" フロアタム)

\* 三本の脚棒を脚受け金具にとりつけます。安定性を良くするために脚棒の曲がった部分は円周に対して直角に出るように気をつけてください。

\* 位置決めをする際には一本の脚が自分の右足(左利きの場合は左足)の脇にくるように置き、その脚の長さで傾き具合を調整します。高さはスネアドラムと同じか、やや低めにするのが一般的です。

#### 6-2B. フェージョンキットの場合(14" Tom Tom)

\* 付属のクランプとタムアタッチメントをシンバルスタンドに取り付けてセットします(図6-2)。転倒防止のため、タムタムを取り付けたシンバルスタンドの脚板の一本がタムタムの真下になるように注意してください。

## 7. ハイハットスタンドの組み立てと調整

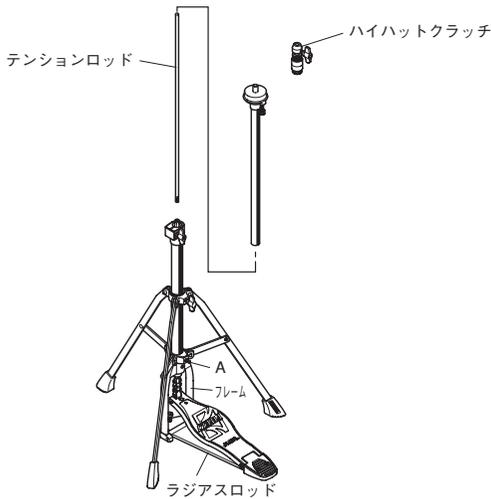


図 7-1

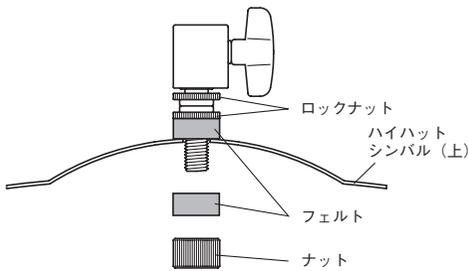


図 7-2

### 7-1. ハイハットスタンドの組み立て

- \* まず三脚部を開き、ラジアスロッドをフレームの穴に差し込んで下段部を立てます。
- \* テンションロッドから一旦クラッチを外し、テンションロッドを下段に取り付けます。
- \* 上段パイプを下段パイプに挿入し、好みの高さで固定します。
- \* クラッチにハイハットシンバル(上)を取り付けます。図7-2のようにまずクラッチの下側のナットとフェルトを外し、二枚のフェルトの間にシンバルを挟むようにして固定します。また、ロックナットの位置を調整することによってクラッチに対するシンバルの締め具合を調整できます。ハーフ・オープン音をよく使う場合にはシンバルを緩めにセットしたほうが音がきれいに繋がります。
- \* ハイハットシンバル(下)をボトムの上にセットした後、クラッチに取り付けたシンバル(上)をセットします。ペダルを踏み込んでいない状態で上下のシンバルの間隔が3cm～5cm 開くようにセットするのが一般的です。

### 7-2. SWIVELING FOOT

- \* 角頭ボルトAを緩めることで三脚部が自由に回転します。別売りのツインペダルを使用する際に便利な機能です。

## 8. シンバルスタンドの組み立て

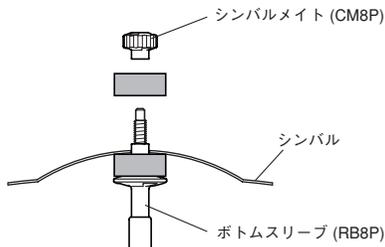


図 8-1



図 8-2

三脚部を開き下段部を立てた後、中段、上段を挿入し組み立てます。シンバルは図8-1のように上部のティルターの二枚のフェルトに挟むようにセットします。また、ブームシンバルスタンドには図8-2のようにストレートスタンドとしても使える"コンバーティブル・ティルター"を採用しており、ブームアームを上段パイプの中に収納できる設計です。

#### 注意

- \* TAMAではシンバルの保護を第一に考え、樹脂製のシンバルナットやスリーブを使用しています。これらのシンバルに直接触れる部分は摩耗しますので、シンバルへのダメージを防ぐために時々点検してください。ボトムスリーブRB8Pは上下にスリーブがあり、片方が摩耗し切れた際には応急的に裏側が使える設計になっています。
- \* ブームスタンドはお買い上げのドラムセットに含まれていない場合があります。

 **TAMA**®